

文化の森 能楽へのご招待

安^あ達^{だち}原^が
黒頭^{はら}



平成三十一年三月十六日(土)

入場無料

時間 ◇ 午後六時開演(開場午後五時半)

申込不要

会場 ◇ すだちくん森のシアター

本公演は、蠟燭(ろうそく)を照明に使用していた頃の雰囲気をお楽しみいただける、蠟燭能で上演します。

主催・徳島県立二十一世紀館



解説

橋本ハル子

仕舞

通盛

盛

浦部幸裕

地謡

寺澤拓海
橋本光史

衣キリ

吉浪壽晃

寺澤幸祐
吉田篤史

休憩

能

里女
鬼女

井上裕久

安達原

山伏祐慶岡

充

大鼓 谷口正壽
小鼓 成田達志
太鼓 中田弘美
笛 赤井啓三

黒頭

有松遼一

間 茂山逸平

能力

後見

橋本光史
浦部幸裕

地謡

橋本ハル子
寺澤幸祐
寺澤拓海
吉浪壽晃
吉田篤史
浅井通昭

附祝言

井上裕久【いのうえひろひさ】



親世流シテ方 京都市在住
二十五世宗家故親世左近・
二十六世宗家親世清和及び
父九世故井上嘉介に師事。
国指定重要無形文化財「能楽」
技能協合理事他役職多数。
技能認定者。

鬼女能【安達原(あだちがはら)】あらずじ

祐慶(ゆうけい)という山伏一行が、修行の途中、東北の安達原に着き、一軒家に泊めてくださいと願います。そこには女性がひとり住んでいて、一度は断りますが、是非にといわれ招き入れます。山伏が見馴れぬ梓梓輪(わくかせわ)に興味を持つので、女性は糸をつむいで見せます。夜更けに、女性はもてなしの焚火をするために、山へ木を取りに行きますが、その際、帰るまで閨(ねむら)の中を見るなど言っておかれます。あまりに何度も見ても見えないと言っておかされたのを、かえって不審に思った能力(のうりき)が、山伏の目を盗んで閨をのぞいてしまいます。そこには人の死骸が山と積んであり、一行は驚いて逃げ出します。山からの帰り道のぞかれたことを知った女性は鬼女となつて、約束を破ったことを恨み、襲いかかります。山伏の必死の祈りに、鬼女は敗れ、恨みの声を残して消え去ります。

通盛【みちもり】

※梓梓輪：紡いだ糸を巻く道具

平家一門の果てた阿波鳴門の磯辺で僧が読経をすると、篝火を焚き、漁翁と若い女の乗る舟が近づき、小宰相局(こざいしょうのつぼね)の入水のありさまなどを物語り、闇間に消え去ります。やがて僧の読経の声にひかれ、一の谷で討ち死にした平通盛と、鳴門で入水した小宰相局の霊が連れ立って現れ、夫婦の別れとなった出陣から討ち死にまでを物語り、やがて法華経により成仏の身となります。仕舞では、討ち死にの様子や法華経によって成仏する最後の場面を演じます。

羽衣【はごろも】

駿河国三保の松原に住む白龍という漁師が、釣に出かけ、春ののどかな浦の景色を眺めていると、一本の松に美しい衣が掛かっています。家宝にしようと、持ち帰ろうとすると、天女が現れて羽衣がなくて天に帰れないと、空を仰いで嘆き悲しみます。その姿を哀れに思った白龍は、羽衣を返すかわりに、天人の舞楽を見せてほしいと頼みます。やがて天女は衣をまとい、舞楽を見せて天に帰っていきます。仕舞では、春の景色を愛でながら富士山を背景に天空へと舞い上る様子を演じます。

What is The Noh Play?

初めてのお能 豆知識

◆能楽とは
約650年の間、一度も絶えることなく演じられている日本を代表する伝統芸能。

能は、「能面(または面)」と呼ばれる独特の面を使う仮面劇で、せりふにあたる「謡」と、それに伴う「型(演技)」と「舞」から成る歌舞劇、音楽劇です。また、音楽を担当する囃子方は、笛・小鼓・大鼓・太鼓の四種類の楽器から構成されます。

◆仕舞とは
能一曲の中で、一定の見せ場を地謡に合わせて舞う、能の演奏形式。



舞い手は、面・装束をつけずに、紋服姿または袴(かみしも)姿で、仕舞扇だけを持って舞います。

◆蠟燭(ろうそく)能とは
舞台の周辺に置いた蠟燭の灯りを頼りに演じられる能。

明るい照明の下とは違った、揺らぐ灯りの中に浮かぶ能面の表情や演者の所作などが、幽玄の世界を一層感じさせます。

※出演者は、変更になる場合があります。 ※都合により、演出(蠟燭能)を変更することがあります。
※会場での写真撮影、録音・録画は、ご遠慮ください。 ※屋外で夜間に開催しますので、会場内の気温は、日中よりかなり下がることと考えられます。救命やひざ掛け等を持参されるほか、暖かい服装でご来場ください。